

一度やれてしまったことを どうしていくのか？

——ポスト(後?/続?)パンデミックの社会学教育についてのコメント——



茂木謙之介(もてぎけんのすけ)

東北大学／雷音學術出版

表象文化論／メディア史

motegi@tohoku.ac.jp



雷音學術出版



はじめに



・ 討論者は社会学プロパーでもICT教育プロパーでもない
⇔ オンライン授業記録プロジェクト「雷音学術出版」を発案／実装

青木亮人・赤坂辰太郎・秋田美帆・秋保さやか・朝山奈津子・阿部直也・有元伸子	
飯倉義之・池上大祐・池田さなえ・イザベル・真美・石田健一・石野一晴・石原由貴・李承俊	
坂倉孝信・市川麻美・伊藤潤一郎・今井宏昌・岩間大智・岩田久美加・上地聡子・宇部伸之	
根本雅之・大井山記・大賀哲・大坂道・大賀俊夫・大山貞徳・岡英里奈・越智敏・宇谷亮	
笠間はるな	加島正浩
片山奈緒美	加藤諭
加藤巧	加藤明江
加藤山香子	門田裕次
金原大輔	神村明佳
亀井伸孝	河西秀哉
木内久美子・北田雄一・本場貴俊・桐原健真・クラウタウ・オゾン・里木秀房	
ケイン樹里安・黄偉修・小三田誠二・小林恭子・小林弘直・近藤誠司・坂口可奈	
坂本麻裕子・清水貴恵・朱慈珠・菅谷孝義・鈴木貞太郎・鈴木崇夫・鈴木隆弘・鈴木悠	
須藤武司・春原史寛・関根和泉・瀬島利枝・瀬沼文彰・高本信良・田中樹里・田中直	
寺田麻也・照屋建太・土原浩・時岡新・伴野聖生・伴野文亮・中沢知史・中嶋洋平	
中国宏章・中妻結・長津結一郎・仲矢信介・成田麗奈・西田彰一・西山雄二・野澤聡	
野村朋弘・野原佳代子・横本嘉代・蓮田隆志・長谷川元洋・服部このみ・花家彩子	
早川公・樋田有一部・日高晋介	平川全機・廣瀬航也・廣田隆平
前田智・増地ひとみ・松岡昌和	雷音学術出版
松田貴・増地ひとみ・松岡昌和	松川隆哉・松本優也・松本知子
田原望希・松山響子・湯邦生	宮内洋・宮平隆央・村上一基
村上舞・モリ・アルベルト・クストゥーマス・森薫・矢田調子・矢吹康夫・山崎玲奈	
横田祐美子・吉沢晃・藤貫貞郎	

池田さなえ・伊澤高志・イザン・パールまみ・石上敬子	オンライン授業の地平 —2020年度の実践報告— 小泉勇人・茂木謙之介・大嶋えり子 編 雷音学術出版
石原和・伊勢みゆき・市川麻美・伊藤慈晃・伊東裕紀	
伊東幸子・伊藤敬也・今井啓介・岩田久美加	
殷曉星・上原健二・植松雄太・梅津紀雄・江藤裕之	
大賀哲・大木由以・大坂道・太田正登・太田奈名子	
岡本華枝・荻野哉・小熊良一・奥村華子・小野憲史	
加藤由香子・金原大輔・構大樹・上出大河・神村朋佳	
亀井美穂・川瀬雅・カンミン・ヤン・岸見太一	
岸本千秋・木野村嘉則・工藤文・小阪裕城	
小島大輝・児島功和・後藤田和・小林恭子	
佐藤勢紀子・下崎聖・下條朝也・朱慈珠	
庄司貴由・白岩尚・杉本卓・曾生千穂・鈴木優作	
鈴木研太・鈴木悠・鈴木裕輔・須藤武司・春原史寛	
瀬島利枝・竹ヶ原康弘・竹之内葉子・田中直	
田嶋恵子・華艾婷・趙秋華・寺崎里水・照屋建太	
野岡新・永井健太郎・中妻結・中村大介・野澤聡	
野村啓介・萩野智美・長谷川元洋・濱中敬太郎	
早川公・伴正隆・半田幸子・樋田大二郎	
樋田有一部・廣田龍平・藤枝史江・帆北智子	
堀純也・前田菜月・増地ひとみ・松岡和美	
松岡昌和・松田健太郎・松本章伸・松本知子	
宮地和樹・武藤宏司・村中均・百瀬光一・森下優子	
森祐貴・山内勝弘・山口直彦・山本歩・山本美紀	
芳中千裕・和田崇	

相川真穂・青島啓太・阿部純・石田健一・石元みさと	コロナとアカデミア 茂木謙之介・大嶋えり子・小泉勇人 編 雷音学術出版
飯倉孝信・植松雄太・大木由以・大場健司・岡野裕行	
岡本華枝・小川由香里・荻野哉・小熊良一・小松賢治	
越智敏・笠野英弘・加戸隆司・門田裕次・角山照彦	
龜山光明・菊山晴・川口かすみ・北田雄一・伴潤恵太	
熊谷摩耶・群柳信吾・児島功和・小嶋智枝・阪上彩子	
坂口可奈・崎濱紗奈・佐々木邦華・佐藤勢紀子	
嶋田龍司・朱慈珠・庄司貴由・白岩尚・白鳥亜矢子	
白戸亮吉・中貞恩・杉下辰雄・杉本卓・鈴木研太	
鈴木優作・春原史寛・高橋博美・滝沢隆・竹ヶ原康弘	
田中浩喜・華艾婷・塚越博史・辻本桜子	
デイヴィス・恵美・寺崎里水・照屋建太・中沢知史	
中山新也・清川匡希・西田彰一・西山雄二・二宮愛理	
野澤聡・野中美真子・長谷川元洋・早川公・速水紗弥	
樋田有一部・樋田大二郎・平中尚子・廣瀬航也	
古田雄一・Shaun HOGGARD・堀純也・前田菜月	
増地ひとみ・増淵佐亮・松中完二・松本知子・三浦麻美	
宮平隆央・虫明美貴・本山仁美・森祐貴・森谷菜月	
森下純弘・矢吹康夫・山崎真・山本博・山本美紀	
吉嶺加奈子・Richard LEE	



詳しくはこちらに!



全体を踏まえて



- オンライン授業を一度経験したことによって、なにか大学生生活（授業含む）に善かれ悪しかれ変容は起きてしまっており、それをどのように受け止めるのか
 - ex. 対人関係の困難な学生の単位取得／課外活動の崩壊
⇒ できる最低限 + α (⇔ しかし決して軽くない負担) を担ってきたことをどう継続できる／すべきなのか？
- ※ ネガティブ・ケイパビリティ問題??



コメント



- プラットフォームへの依存／受講の在り方の変化
→ 大資本への依存＝教育そのものの高コスト化を招来
⇒ 学生／教員／大学間格差の顕在化
- 身体性そのものの意味が不可逆的に変容しているのでは？
→ 「実際の体験」そのものの虚構性が今後浮上する可能性
……テキストの批判的な精読の意義



ご質問



1. いわゆる「ポストパンデミック」が「定着」する中で学生／教員それぞれで分断が成立している可能性
→ そのなかで如何なる「包摂的」な教育が可能なのか／そもそも大学という場をどのように位置づけるべきなのか？
※ 新しい教育参入者に何を求め、教育をどう再生産するか？
2. 学会/研究会の対面回帰傾向についてどう考えるか？
→ (特に大学院以降) 教育の場としての学会・研究会の意義